

リサイクルとは

一度使った紙をパルプにもどして、もう一度新しい紙をつくること。	空びんを小さく砕いて溶かし、新しいガラスをつくること。	アルミ缶を溶かして、冷やしながら板状にして、もう一度アルミ缶につくりかえること。	ペットボトルを小さく砕いて溶かし、新しいペットボトルにつくりかえること。	古くなった車をつぶして溶かし、新しい鋼鉄(スチール)をつくること。	芝刈りや草むしりをしてでた草を細かく刻んで生ゴミとまぜて、コンポストをつくること。

リサイクルするには

<b>廃品回収</b> 空ビン、アルミ缶、ペットボトル、紙などをあつめる。	<b>分類</b> 種類によってリサイクルの仕方がちがうので、あつめたものを種類ごとに分ける。	<b>再生</b> あつめたものを新しく生まれ変わらせるために手を加え、原料の状態にもどす。	<b>再利用</b> 再生された原料で新しい製品をつくる。

実験してみよう

自然は何をリサイクルするの？

どんなものが自然に分解し、どんなものが自然に分解しないかを確かめてみよう。自然に分解して土にもどる性質のことを生物分解性という。

- 素焼きの植木鉢1コ
- 小石1コ
- 植木鉢1杯分の土
- ハサミ1本
- 水少々
- アルミホイル、食べ物のくず、木の葉、紙、ビニール袋、発泡スチロールなどのゴミ
- ガラスのパイ皿
- 新聞紙5.6枚
- 長さ30~45cmくらいの棒きれ
- ゴム手袋

用意するもの

実験方法

01. 小石で植木鉢の穴をふさぐ。
02. 植木鉢の底から3分の1まで土を入れる。
03. ゴミを同じ大きさになるように切る。
04. ゴミを土の上にバラバラに置く。
05. 植木鉢がいっぱいになるまで土を入れる。
06. 土がしっとりぬれるぐらい水を入れる。
07. ガラスのパイ皿をひっくり返して植木鉢にふたをする
08. 暖かくて、暗い場所に植木鉢を置いておく。
09. ときどき植木鉢の様子を見て、湿り気がなくならないように、適当に水をやる。
10. 4週間たったら、広げた新聞紙の上に植木鉢の中身をあげる。新聞紙を5、6枚重ねる
11. ゴム手袋をはめて直接手で土を広げる。ゴム手袋がないときは、用意した棒きれを使う。さあゴミがどうなったか調べよう。
12. よく観察してごらん。分解したものはどれとどれ？分解しなかったものはどうかな？

\*答えは次号のふれあい特集号のこのコーナーに掲載します。

リサイクルとは、一度使ったものをもう一度使えるようにつくりかえること。今リサイクルされているものには、アルミニウム・スチール・ガラス・紙・ペットボトルなどがある。リサイクルをすると、私たちがすむ山梨だけでなく、日本や地球の環境を守ることに役立つんだ。

1 場所が広く使える

捨てないでもう一度使うんだから、ゴミが少なくなる。つまりゴミ埋め立て地も少なくてすむんだ。

日本には数多くのゴミ埋め立て地があるが、このままではその埋め立て地も数年でいっぱいになってしまう。



2 エネルギーの節約になる

リサイクルするにも、アルミを溶かしたり、ガラスを砕いたりするエネルギーは必要。でも、原料から新しい製品をつくるのに比べればとても少なくてすむんだ。

新しいアルミ缶をつくるのにくらべて、アルミ缶をリサイクルするとエネルギーを97%節約できる。



vol.1 リサイクルってなんだろう？

3 自然環境の保護になる

紙をリサイクルすると、新たに木を伐採しなくてすむので森林を保全することができるんだ。

紙1tをリサイクルすると立木20本分の節約になる。

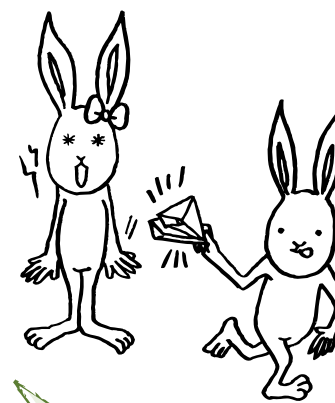
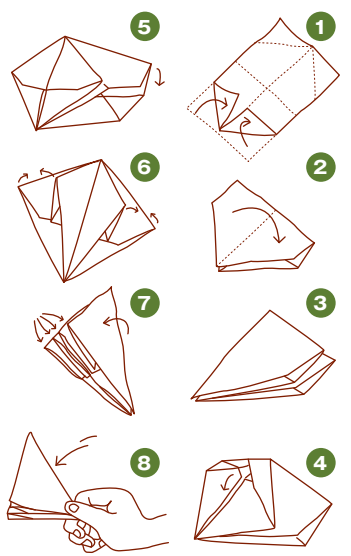


昔の遊びは おもしろい？

折り紙鉄砲

今のように便利なものもなく、テレビゲームなどもちろん無い時代。缶けり・砂取り・松葉相撲に紙ヒコーキ……。道具が無くても新聞広告や日用品で遊んでたんだ。生活は豊かではなかったかもしれないけど、心は遠方もなく豊かだった気がする。そんな時代はどこでも遊び場で、なにかも遊び道具だったんだ。与えられた遊びだけじゃなく、自分で考える遊びも面白いんじゃないかな？

折り紙鉄砲の作り方



※作り方のポイント  
少し厚めの紙を使う。  
大きいモノを作れば、より大きい音がでる。